

令和4年度 三島薬事懇話会

日時：令和5年2月2日（木）14時～15時30分

場所：大阪府茨木保健所 5階 大会議室

出席者：8名出席（委員総数11）

U 議事（1）：会長の選出

茨木市薬剤師会 会長 望月委員が選出

U 議事（2）：認定薬局制度について

（大阪府健康医療部生活衛生室薬務課より説明） …資料1

（大阪府健康医療部生活衛生室薬務課からの質問）

地域で薬局が認定を取得する際にハードルになる事項や医師、歯科医師がトレーシングレポートに求める情報について聞きたい。

（意見）

認定の申請書類の作成が複雑であること、また、薬剤師の研修修了が必須であること、地域ケア会議等への出席実績が認定要件になっていることが薬局にとってハードルであると感じている。また、更新するに際しても研修修了や地域ケア会議等への出席の継続が求められることもハードルになっている。特に会議は薬剤師が主催するものではないので、依頼がないと出席できない。薬剤師からも関係者に働きかけを行っているが、行政でも薬剤師が会議に出席しやすくなるように検討をお願いしたい。

医療機関側としては、トレーシングレポートでは、自宅での飲み忘れがあるのかが気になるため、患者の服薬や残薬の状況を薬局から情報提供してもらいたい。

認定の要件で出席の実績が求められる会議等の中の一つの退院時カンファレンスについては、専門的な知識が必要になり、また、時間や手間もかかるため、薬剤師が出席するのは難しいのではないかと感じる。

かかりつけ薬局のある患者の場合は、薬剤師が退院時カンファレンスに出席するメリットはあると思う。認定を取得するにあたっての要件として、退院時カンファレンスへの出席は厳しいと感じている。

大阪府薬剤師会では、書類の作成が煩雑であることから、認定薬局の取得サポートとして、書式や参考事例を含めた申請の手順書の作成や、無菌調剤室の共同利用や地域包括ケアシステム研修の実施等を行っている。必要に応じて新たな支援も検討したいと考えている。

医療機関としては、積極的な情報提供は有難いが、トレーシングレポートを報告する際には、要点を絞って提供して欲しい。トレーシングレポートの様式に濃淡がある。

また、在宅患者へのテレフォンプォローについては患者から好評価と聞いており、より対面での関り、オンラインでの関り等で柔軟な対応をお願いしたい。今後、薬局との合同研修で情報共有の方法について取り上げる等、連携の強化を検討したい。

薬局から医療機関へトレーシングレポートを行う際、薬局が報告件数の要件をクリア

一するためのレポートになっているようにも思える。患者のための処方機関へのレポートであることを薬局側が意識していけば改善していくのではないかと考える。

(大阪府健康医療部生活衛生室薬務課のコメント)

退院時カンファレンス等は多職種の顔が見える関係を作ることが目的。地域の連携の取組の一つとしてとらえていただきたい。

認定薬局の患者にとってメリットが感じられるよう、まずは実績を積むことが大切であると考えている。

- u 議事 (3) : 調剤事前申し合わせ協定に係るプロトコル (変更調剤 PBPM) について (高槻市薬剤師会より説明) …資料2

(議事の補足説明)

疑義照会を減らし、医師の負担軽減や患者の待ち時間を短縮することがメリットとして見込まれている。今後、締結医療機関を増やして、広域でこの変更調剤 PBPMを実施していきたい。

(意見)

病院によっては院内薬局薬剤師と医師が事前に疑義照会の申し合わせを行っており、変更調剤 PBPMの導入に至っていないケースがあるが、導入により院内の薬剤師の負担が軽減されれば、病棟業務等の患者サービスの向上に繋がる。

病院側がメリットを十分に感じないと変更調剤 PBPM導入は進んでいかない。

- u 議事 (4) : 新型コロナウイルス感染症対策における薬剤師会の対応について 各薬剤師会の活動報告と地域の課題があれば、意見交換を実施…資料なし

(各薬剤師会の報告)

ワクチンの調整 (分注、希釈)、検査薬キット配付、電話による服薬指導、薬剤の配達を行った。

コロナ患者受入薬局は高槻市内に7件程あるが、患者数がかなり偏っているため薬局の負担が偏在しているところが課題である。

防護服などの資材については薬局にはなかなか助成金が交付されなかった。また、色々なところから情報が入ったが、情報整理が難しかった。今後は事前に緊急時や有事対応の手順書などを作成し、準備していこうと思う。

行政機関、医師会や薬剤師会などが連携して検査機関や患者受入医療機関等について情報提供をしていただければありがたい。

新型コロナではトリアージなど保健所が中心になって患者対応を行ったが、今後は医療機関や薬局が役割分担してもよいのではないかと考える。

在宅コロナ患者への酸素濃縮器の配送支援をした。実際に配送する機会はなかったが、チーム医療の中での薬剤師の役割の可能性を高めていきたい。

u 議事 (5) : その他

意見なし